

新・避難訓練

山田美海 多村咲姫 永井結愛 福谷隼人 小松良好 坊城真智

背景

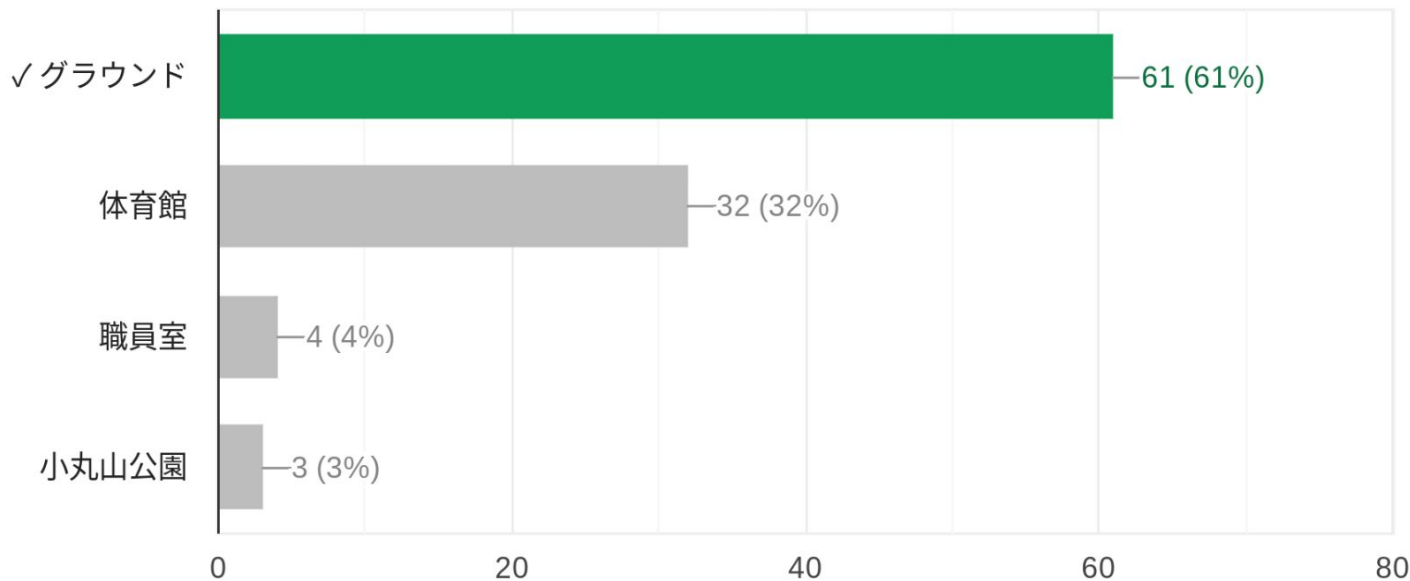
避難訓練の内容が定番化



危機感をもって訓練をする人が少ない

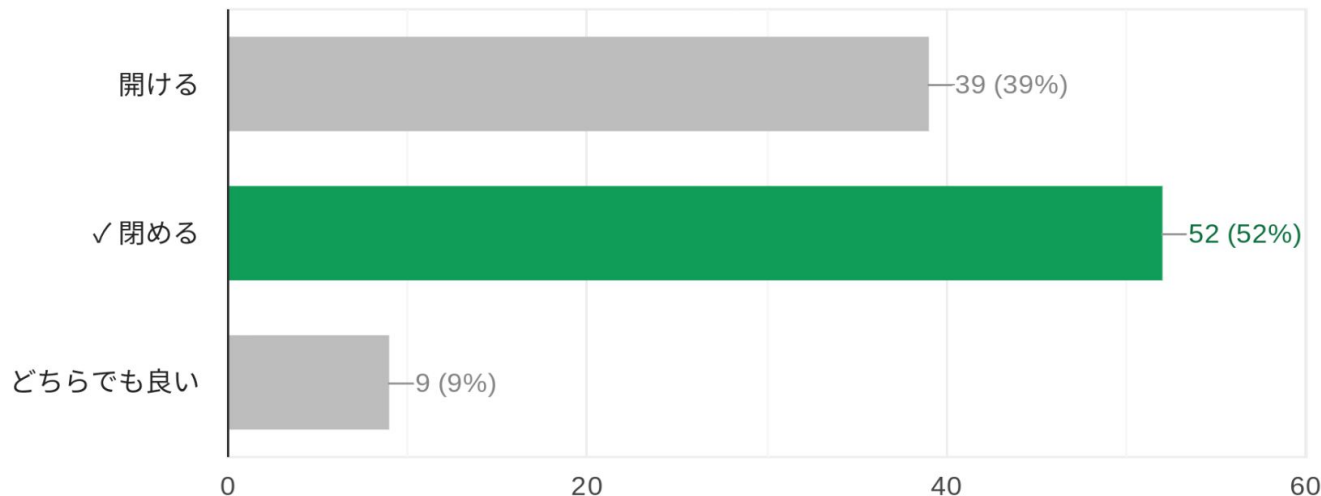
現状

①火災が発生したとき、どこに避難しますか。
(正解:グラウンド)



現状

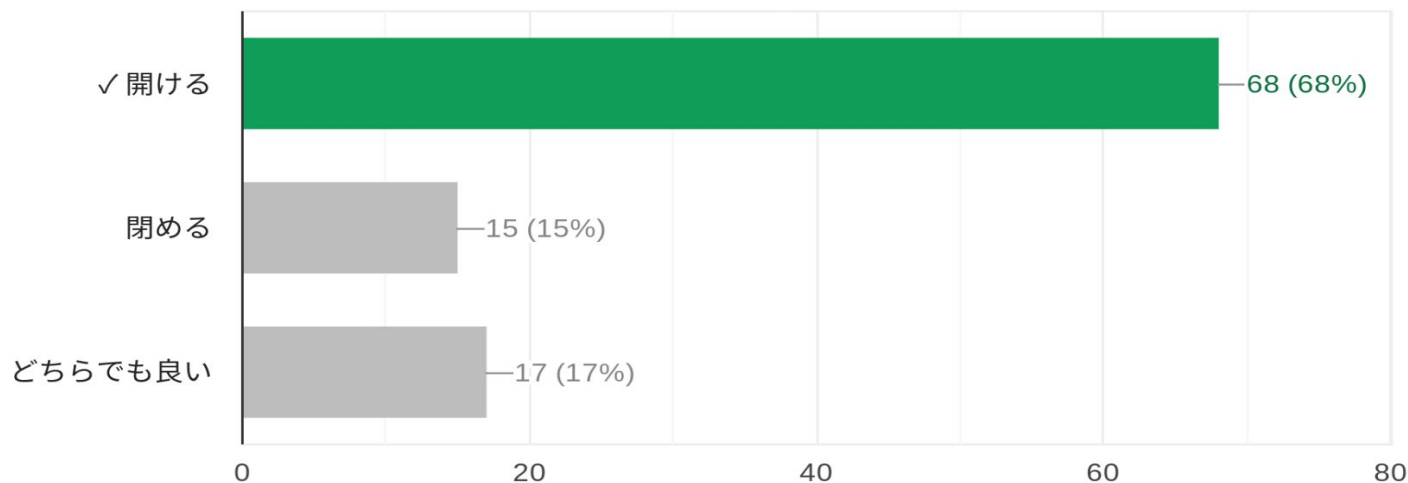
②火災が発生したとき、窓はどうしますか。(正解:閉める)



* 窓を開けると、空気の流れてきて火が燃え広がりやすくなるため。

現状

③地震が発生したとき、窓はどうしますか。(正解:開ける)

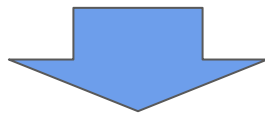


* 大きな地震が発生すると、建物はゆがんでしまい、窓やドアを閉めておくと枠がゆがんでしまって開かなくなり、逃げ道が確保できないことがあるため。

現状

グラフから分かること

①では4割、②では5割、③では3割の人が不正解



避難に対する正しい知識が身についていない

提案

- 避難訓練の回数を増やす
- 災害発生時の正しい行動を授業で教える
- 事前告知せずに避難訓練を行う

連携①

七尾鹿島消防本部に協力を依頼

良くない点

- ・集まるまでの時間が遅い
- ・生徒と教員の連携が遅い
- ・訓練をノルマとしてみている

連携②

七尾鹿島消防本部に協力を依頼

改善方法

異なる状況で訓練を行う

例:体調不良者を出す

避難通路を変える

取り組み①

避難経路図の見直し

問題点

- ・矢印が多くて複雑
- ・多くの人は見たことがない

解決方法

- ・矢印のない地図のコピー作成
- ・一室に一本ずつ矢印を書く
- ・イラストをつける
- ・教室に掲示

取り組み②

避難訓練の実施

①事前学習

- ・被災者へのインタビュー
- ・漫画で訓練の要項を伝える



②サプライズ訓練

- ・管理職のみが知っている状態で
- ・トラブルを入れる
- ・訓練の様子を動画に記録する



③振り返り

- ・動画を見返してクラスルームに反省を記入

取り組み③

セルフチェック

- ・スマホのメモ機能に災害時に必要な情報を残す

例：家族の連絡先

集合場所・避難場所

災害伝言ダイヤル



今後の展望

- ・取り組み②で示したことを実行しながら
避難訓練を実施する
- ・他の人の意見を取り入れ、より良い避難訓練 の
実施方法を考える